

備 前 市 施 策 評 価 シ ー ト

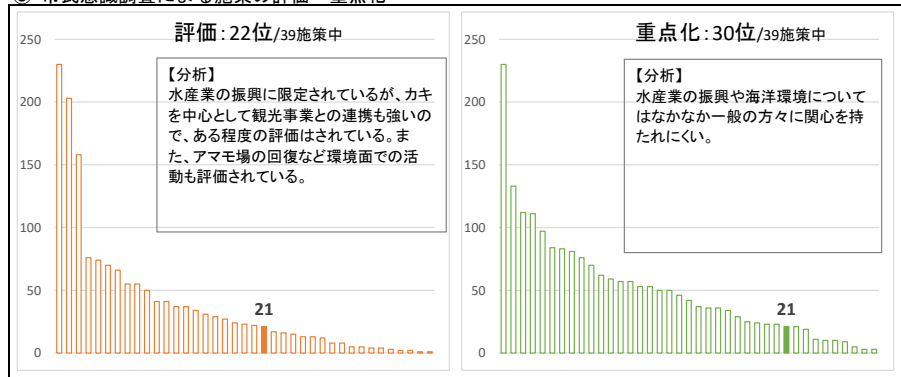
【令和2年度作成】

| | | | |
|--------------------------|--|-----------------|-----------------------------|
| 施策名 (小項目) | 里海づくりを柱とした水産業の振興 | 決算書 P146-149 | (款)6 農林水産業費 (項)3 水産業費 |
| コード | 05-07-26 | 作成者 | 農政水産課長 中畑 喜久弥 (tel 64-1831) |
| この施策の アピール ポイント | アマモ場の再生活動を継続し、豊かな生態系を持つ里海づくりを推進する。 | | |
| この施策の 平成31年度の 施政方針 | 里海づくりを柱とした水産業の振興につきましては、県の協力を得ながら施設や漁場の整備、資源の回復などに対する支援により水産業の振興を図りつつ、里海・里山ブランド推進協議会との連携により、市の資源を活用した備前ブランドの発掘・開発及び情報発信などの取組を推進してまいります。 また、アマモ場の再生や海洋教育、多様な人々の交流拠点として、日本財団の支援による「渚の交番」整備事業を計画してまいります。 | | |

<備前市総合計画の内容から記載する>

| | | |
|-----------------------------------|--|--------------------|
| ① 政策の体系 | 基本構想 (大項目) | 生活環境政策「快適・活力」 |
| | 基本計画 (中項目) | 地域の活力を生む産業を振興させるまち |
| ② 対象と目的 (誰のために、何のために) | 漁業従事者の生活の安定を図るとともに新鮮な水産物の供給と観光産業の振興を図る。 | |
| ③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出) | 本市の水産業は、カキ養殖業を中心とした漁業が盛んであり、漁船漁業も盛んであることから主要産業の一つと位置づけられています。また、五枚の市や真魚市の両魚市場は、漁業者と消費者の交流の場であると同時に、観光地としての側面を持ち、地域活性化の観点からも重要なものとなっています。 しかし、水産資源の減少、漁業従事者の高齢化など、水産業を取り巻く環境は決して楽観できる状況ではなく、今後とも水産物の産地として発展していくためには、基盤整備や後継者対策の取り組みを継続するとともに、里海づくりによる豊かな海の再生に取り組んでいく必要があります。 また、市内での水産物の消費拡大や自然災害に強い漁村の構築が求められています。 漁港(頭島港、大多府港、穂浪港)については、機能を充実させるため年次的に整備を進めていますが、今後は背後地の整備を図っていく必要があります。 | |
| ④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 里海のまちづくり ・ 水産業の経営基盤の強化 ・ 沿岸域の総合管理 ・ 消費拡大の推進 ・ 観光漁業の推進 ・ 漁村・漁港の整備 | |

⑤ 市民意識調査による施策の評価・重点化



⑥ 施策成果指標 (基本目標・基本施策・施策意図から設定)

| 施策に対する成果指標名 | 単 位 | 過年度実績 | | 評価年度 R1 | 成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明 | 目標値 | |
|---------------------------|--------|-------|-------|------------|--------------------------|-----|-------|
| | | H29 | H30 | | | R2 | R4 |
| 成果指標 アマモ場の面積 | 目標 | ha | 250 | 250 | アマモ場の回復面積 | | |
| | 実績 | ha | 250 | 250 | | R2 | 270 |
| | 達成率 | % | 100.0 | 100.0 | | R4 | 280 |
| | ベンチマーク | | | | | — | — |
| 参考指標 漁獲高 | 目標 | t | 270.0 | 270.0 | 年間漁獲高 | | |
| | 実績 | t | 181.0 | 147.0 | | R2 | 250 |
| | 達成率 | % | 67.0 | 54.4 | | R4 | 260 |
| | ベンチマーク | | | | | — | — |
| 参考指標 養殖カキの生産量 (むき身の重量) | 目標 | t | 2,200 | 2,200 | 年間むき身量 | | |
| | 実績 | t | 1,461 | 1,349 | | R2 | 2,100 |
| | 達成率 | % | 66.4 | 61.3 | | R4 | 2,200 |
| | ベンチマーク | | | | | — | — |
| 参考指標 漁業者数 | 目標 | 人 | 100.0 | 100.0 | 正組合員数 | | |
| | 実績 | 人 | 98 | 99 | | R2 | 90 |
| | 達成率 | % | 98.0 | 99.0 | | R4 | 90 |
| | ベンチマーク | | | | | — | — |

⑦ 目標達成に必要な新規事業 (施策構成事務事業以外の事業) 及び連携させる他部署の事業

| 実施主体 | 新規に必要な事業・連携が必要な事業 | 説明・期待される効果 |
|------|-------------------|----------------|
| 岡山県 | 漁港整備事業 | 頭島・大多府・穂浪の漁港整備 |

⑧ 施策の評価

| 項 目 | 評価 | 5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い | | | | |
|-------------------------------------|---|---|--|--|---------------|--|
| | | 判断理由 (なぜ、そのランクと評価したのか) | | | | |
| 1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか? | 4 | 漁獲量の回復にはアマモ場の復活は不可欠ではあるため、引き続き面積拡大に取組む必要がある。 | | | | |
| 2 <事業構成の適当性> 手段は最適か? | 4 | 水産物の安定供給と漁業従事者の持続的な活動を支援することから事業構成は妥当である。 | | | | |
| 3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは? | 4 | アマモ場の面積については長期期間を通して調査しているため、面積の変動が現れにくいですが、漁獲量・カキの生産量についてはここ数年減少傾向にあり、今後、関係機関と協議しながら原因を追究して対応していく。 | | | | |
| 進行年度 (R2年度) の取組内容 (課題解決状況) | 近年の漁獲高の減少原因について、引き続きアマモ場の再生活動と生態調査を継続していく。また、平成26年度からのカキ養殖の低迷に関しても関係機関と連携をして改善に取組む。 | | | | | |
| 翌年度 (R3年度) の取組目標 | 緊急の課題である漁獲量の改善について引き続き関係機関と連携して調査活動に取組む。また、里海・里山ブランド推進協議会で資源を活かしたまちづくりとして、里海・里山ブランドの発掘・開発を行い、ブランド化により地域経済を活性化させ、持続可能で包括的なまちづくりを推進する。 | | | | | |
| 二次評価者コメント | 漁業資源の減少や漁業者の高齢化などから縮小傾向にありますが、食糧供給だけでなく観光資源・環境保全の役割からも備前市の水産業は重要性が高いと考えます。水産資源の再生や漁業施設・経営基盤の整備などに関係機関と連携し引き続き取り組んでください。また、ブランド推進協議会による取り組みについては、今後、地域産業の振興や人の交流に寄与すると考えられることから、市民へと定着し持続可能なものとなるようしっかりと取り組んでいきましょう。 | | | | 基本施策への 貢献度 | |
| 役職 氏名 | 産業部長 岩崎和久 | | | | 4 やや高い | |